2025年5月 第2回学生定例会議

1. 日時：2025. 05. 21 (Wed) 16:30～18:00

2. 場所：SyDE講義室

3. 議事：

今年度の定例会議の方向性についてグループ討議を行った後、定例会議の目標等について全体討議を行った。主な意見等は以下のとおりであった。

次回の定例会議までにSlackを用いた議論を継続するとともに、所属学生全員を対象とするアンケートを実施することとなった。

● SyDEの定例会の方向性について

<A, Bグループ>

- ・ 学術 or 社会貢献 どちらの方向性？
- ・ 社会貢献に振っていくとして、博士課程の学生がどこまで関われるか？が疑問

<C, Dグループ>

- ・ SyDEがどういう集団になるかを特徴づける必要がある。
- ・ マッピング手法① 研究者のエッジとノード
→ 科研費の共同研究者をもとにプロットしているので、①は向いていないかも
- ・ 手法② 自然言語処理モデルを使ったマッピング
→ プロットは出来るが、意味のあるプロットづくりとその解釈の議論が必要そう。
- ・ マッピングの軸の取り方によって特徴付け方が変わってくる。

<Fグループ>

- ・ お互いの研究テーマや背景を把握する、クイズ大会を通してお互いを知る
- ・ Google Form で定例会議の案を募る
- ・ 他分野の学生と話すスタイルは崩したくない、博士の能力が世間的に知れ渡ると良い

<Eグループ>

- ・ 「近い隣の領域を結びつけていく」を色々な場所で行う。SyDEに入ったモチベーション

<Gグループ>

- ・ 3年程度の長期的な活動が必要では？
- ・ 前期：お互いの研究の概要を知る、学会のアブスト共有 → 後期：それをもとに講演を呼ぶなど

<H, Iグループ>

- ・ 異分野交流、国際交流、専攻ごとの概説共有

● 定例会議の目標は何か？

- 定例会議は個人で始めたもの or 先生方が始めたもの？

- 目的は分からないけれど、回替わりで議題を決めて回すものだと認識

- → プログラムの設計には最初から入っている。定例会議をすることによって予算を得ている。学年や分野を超えて顔を合わせる機会を作りたい。(ランチミーティングは上手くいかなかった)
- サステイナブル・セミナー(清水先生)の講義はインプット。
- 定例会議をきっかけに自主的な企画が生まれることが望まれる。
- 2024年度は2023年度よりも出席率が15%程度上昇した。

- 定例会議で異分野の研究を知る機会があったのか？
 - 昨年は学生ポスターを紹介する回があった。
 - 企業フォーラムでSyDE採用初年度とD2は自身の研究紹介ポスターを作成
 - 理学/工学のそれぞれ別分野同士、理学/工学/人文科学をまたいだ交流
 - ↑ 研究者の距離によって、理解度が異なる。
- もっとカジュアルでもいいのでは？回替わりで「やりたいことがある人」が各回をコーディネートするのも良いのでは。